

ISSN 0387-7280

国際日本文学研究集会会議録 (第20回)

PROCEEDINGS OF THE 20th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE
(1996)

国文学研究資料館

NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 20th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE**

1996

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Sinagawa-ku,

Tokyo, 142

第20回

目 次

挨拶	佐竹昭廣	2
研究発表		
『とはすがたり』の夢 - 執着心を克服する女としての二条 -	金粉淑	9
和泉式部恋愛詩歌の特徴 - 韓国の女流詩人黄真伊との対比を通して -	南二淑	32
『日本書紀』と古代日本文学	Lioudmila ERMAKOVA	53
第一セッション総合討議		62
新古今時代における本歌取りの遣い方	Rein RAUD	63
鬼娘の系譜 - 黄表紙を中心に -	Adam KABAT	73
谷崎潤一郎『少将滋幹の母』にあらわれる 平安時代のイメージ	Jacqueline PIGEOT	93
第二セッション総合討議		110
樋口一葉『琴の音』の構想とその基盤	林嵐	112
森鷗外「キタ・セクスアリス」の哲学	Maria De Prada Vicente	129
横光利一と結核 - 結核的日常と近代人の不安 -	張建明	144
第三セッション総合討議		165
公開講演		
王朝の〈夕暮れ〉 - 芥川龍之介「羅生門」を視点として -	平岡敏夫	166
平安時代貴族社会における作文	Francine HÉRAIL	192
記 録		
第20回国際日本文学研究集会		212
参加者名簿		213
国際日本文学研究集会委員名簿		219

挨拶

佐竹昭廣

昨夜は木枯らしが吹きました。今日は「立冬」です。

初冬や訪はんと思ふ人来たり

これは正岡子規の句ですが、今日はまさに「訪はんと思ふ」人たちが、世界各地から来たり集まって下さいました。

今日と明日にかけて八人の方々が、御専門の分野から研究発表を行います。一人でも多くの方に発表していただきたいと思うため、それぞれの発表時間は十分とはいえませんが、あしからず御了承下さい。

また本日は招待研究発表として、パリ第七大学のジャックリース・ピジョー教授が花をそえて下さいます。今年、コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所と国文学研究資料館の間に学术交流協定が締結されましたので、その記念にお招きしたものです。ピジョー教授は、日本文学研究者として、フランスはもとより日本でも著名な方です。1988年『道行文の研究』で山片桃蟠賞を受賞されました。

また、明日の公開講演は、群馬県立女子大学長平岡敏夫氏、フランス国立高等研究院教授フランシーヌ・エライユ氏の両先生にお願いしております。平岡氏が、明治・大正・昭和にわたる日本近現代文学研究の国際的権威であることは、皆様ご存知のとおりですが、この国際日本文学研究集会委員会の委員長をも、多年お勤めいただいております。

す。フランシーヌ・エライユ教授は、本年度当館客員教授としてお迎えいたしました。日本史、日本文学史を専攻され、目下「平安朝の記録文学の研究」を進めておられます。名著『御堂関白記の研究』によって、1993年度山片桃蟠賞受賞、フランスにおけるジャポノロジーの碩学とよばれるにふさわしい方です。

今回の研究集会は、研究発表、公開講演いずれも興味津々たるものがあります。この国際日本文学研究集会は、今年でちょうど20回を重ねます。第20回をかざるにふさわしい記念行事になるにちがいないと慶んでおります。

二日間の研究集会に対し、皆様の有益な御教示と、あたたかい御批判をお願いいたします。

発行

平成9年10月

編集兼発行者

国文学研究資料館

〒142 東京都品川区豊町1-16-10

電話 (03) 3785-7131(代)

FAX (03) 3785-7051

印刷所

株式会社 三協社

〒164 東京都中野区中央4-8-9

電話 (03) 3383-7281